

中外炉工業

電熱式連続光輝焼鈍ライン納入

ルーマニアのステンレス鋼メーカーに

鉄鋼・非鉄金属加熱炉や熱処理炉などを手掛ける工業炉メーカー、中外炉工業（本社・大阪市中央区、社長・阪田守氏）は先月31日、ルーマニアのステンレス鋼メーカーであるO

ニュートラルに資する設備となっている。また、同設備で製造される高品質なステンレス鋼材は、EVの車載用電池関連素材や、データーセンター向け熱交換器用素材など、今後さらなる需要拡大が期待される分野での使用が見込まれている。

焼鈍ライン（BA3）を納入し、先月に検収完了となったと発表した。

中外炉工業とオテリノックスとの関係は長く、1977年に中間焼鈍用および仕上焼鈍用のステンレス鋼連続焼鈍酸洗ライン（APL）を納入したことに

厚0・07～1・0ミリのステンレス鋼帯を処理する連続光輝焼鈍ライン。2023年1月に契約を締結し、設計・製作・据付・試運転を経て、25年12月に第一号のコイルの生産を開始した。



同設備では電気加熱を採用しており、燃焼に伴うCO₂排出を抑制することで、生産時のCO₂排出量の削減が期待でき、カーボン

に資する設備

始まる。その後、2002年にはステンレス鋼用連続光輝焼鈍ライ

ン（BA1）を納入するなど、約50年にわたる良好な関係を築いている。こうした長年の実績と信頼関係を背景として、今回新たにBA3の発注に至った。今回のBA3の納入について中外炉工業社は「当社が注力する電

熱式熱処理設備の欧州市場における展開をさらに拡大するうえで重要な実績となる」とし

「今後も、顧客の脱炭素化、高品質化および生産性向上に貢献する設備・技術の提供を通じて、

じ、欧州をはじめとするグローバル市場での事業拡大を目指していく」としている。